

健保ニュース



健康保険の「2022年危機」とは？

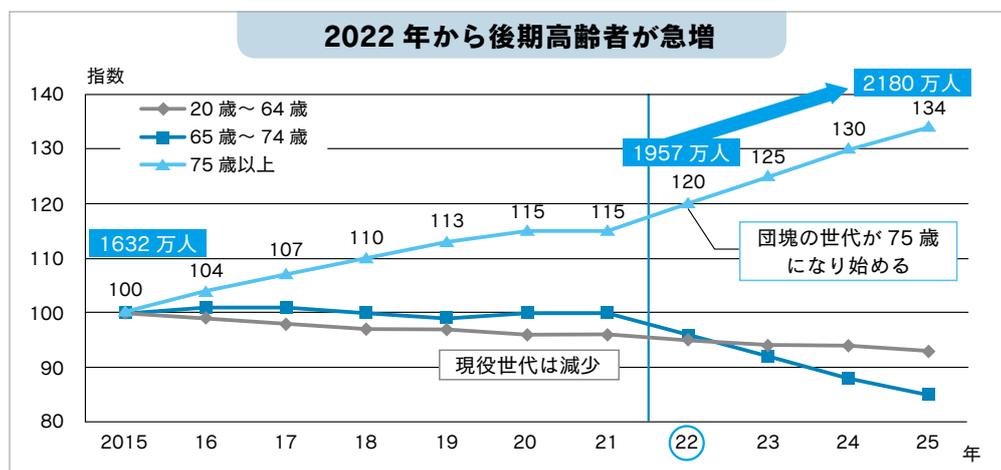
人口のさらなる高齢化と現役世代の減少が進行する中、特に団塊の世代（1947年～49年生まれ）が後期高齢者に到達し始める2022年から全員が後期高齢者になる2025年にかけて、後期高齢者の医療費が急増します。これに伴い、現役世代が加入する保険制度からの「後期高齢者支援金」が急激に増加し、保険料率の上昇が危惧されます。医療と介護の保険料率上昇に歯止めがない中で、厚生年金保険料率18.3%（固定）を足し合わせると、2022年度には合計で30.1%となります（健保連想定の前平均値、事業主負担を含む）。

⇒高齢者納付金については3ページのcolumnを参照

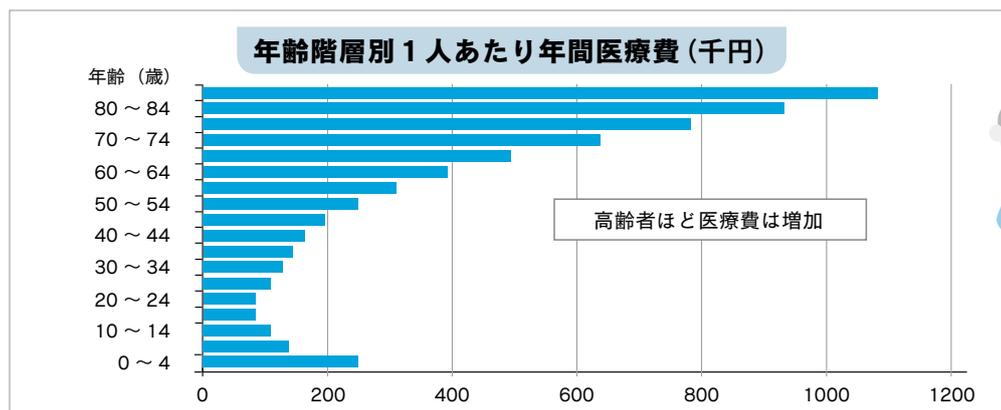
政府は、「全世代型社会保障」への改革を進めるため、来年の骨太方針2020において給付と負担の見直しを含む政策

を取りまとめるべく、検討を行っていますが、健康保険組合連合会では、国民皆保険制度を持続可能にするため以下のような課題に取り組むよう提言を行っています。

- ①給付と負担のアンバランスを是正します
（75歳以上の医療費の自己負担を、今の原則1割から、低所得者に配慮しつつ、原則2割に引き上げる）
- ②拠出金負担の増加に歯止めをかけます
（75歳以上うち、現役並みの所得者の医療費の財源について、ほかの75歳以上と同じように5割を公費でまかなう）
- ③医療費の伸びを抑え、健康保険制度を持続させます
（市販品で代用できる薬を保険適用から外すなど、医療保険の給付範囲を見直す）



* 2015年を100としたときの20～64歳（現役）、65～74歳（前期高齢者）、75歳以上（後期高齢者）の人口推移率（健保連の資料をもとに作成）



（「平成29年度 国民医療費の概況」をもとに作成）

30年度決算のご報告

富国生命健康保険組合の平成30年度収入支出決算および剰余金処分案が、7月17日に開催された第175回組合会で承認、決定されましたので概要をご報告いたします。

一般勘定

収入

科目	金額	前年度比
健康保険料収入	5,617,176	100.4
財政調整事業交付金	45,717	74.3
国庫補助金	14,813	52.4
雑収入等	9,624	103.4
収入合計	5,687,330	99.8

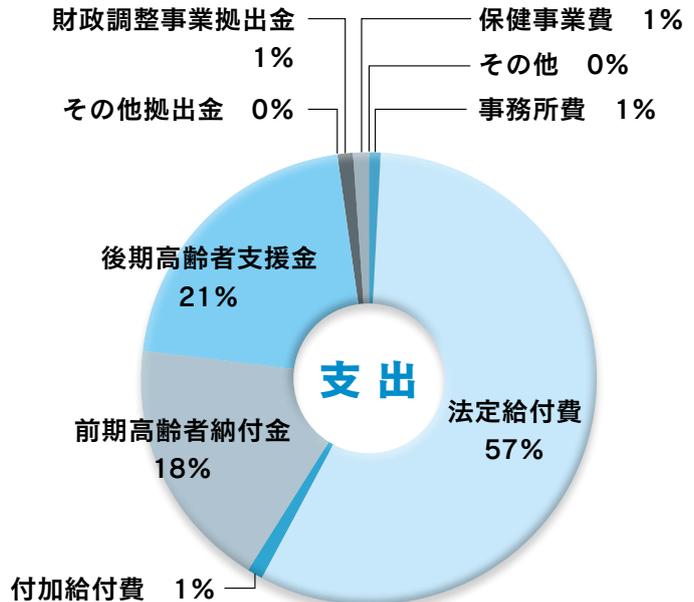
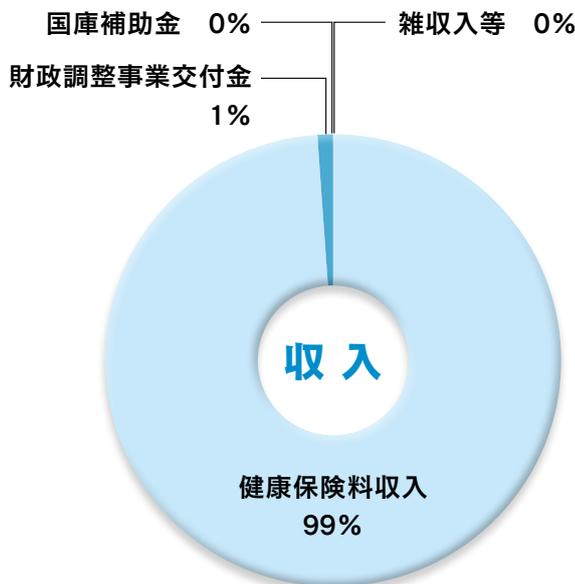


支出

(単位：千円,%)

科目	金額	前年度比
事務所費	53,915	118.1
法定給付費	2,860,076	101.3
付加給付費	28,424	92.9
前期高齢者納付金	881,753	72.0
後期高齢者支援金	1,037,501	102.4
その他拠出金	8,398	
財政調整事業拠出金	60,213	93.9
保健事業費	65,077	95.8
その他	2,971	
支出合計	4,998,328	93.7

収	支	残	+ 689,002
単	年	度	収
		支	+ 689,002



解説

収入の大部分を占める保険料収入は、平均被保険者数がほぼ横ばいとなり、保険料率も110%を維持したため、前年度並みの56億1,717万円となりました。その他、国庫補助金や雑収入などの収入を含め、収入合計は56億8,733万円となりました。

支出では、保険給付費全体で28億8,850万円となり前年度からの増加が1.2%と小幅に留まり、また、高齢者医療制度への納付金や拠出金も過年度の精算等の影響で19億2,765万円と前年度から16.1%減少しました。その

他、加入者の健康増進や疾病予防を目的とした事業遂行のための保健事業費は、インセンティブ事業として「フコク健康ポイント」を導入するなど全体で6,507万円を支出しました。その結果、支出合計は49億9,832万円となり、前年度から6.3%減少しました。

以上により単年度収支残は6億8,900万円の黒字となり、法定準備金からの繰り入れも行うことなく決算できました。収支残金は、財政調整事業繰越金13万円を除き、すべて法定準備金に積み立てました。

介 護 勘 定

▼ 収 入

科 目	金 額	前年度比
介護保険料収入	521,368	106.6
国庫補助金	7,195	115.8
雑収入等	0	
収入合計	528,563	106.7

▼ 支 出

(単位：千円,%)

科 目	金 額	前年度比
介護納付金	519,315	98.3
その他	0	
支出合計	519,315	98.3

収 支 残	+ 9,248
単年度収支	+ 9,248

解説

介護保険料率については、今後の増加が予想される介護納付金への対応等を踏まえ、前年度から1%引き上げ16%としました。その結果、介護保険料収入については、対象年齢の40～64歳の被保険者数は減少傾向にあるものの、前年度から6.6%増加し5億2,136万円となりました。また、国庫補助金として719万円の収入があり、そ

の結果、収入合計は5億2,856万円となりました。

支出では介護納付金が前年度からは微減となり、支出合計では5億1,931万円と前年度から1.7%減少しました。

以上により収支残は925万円の黒字となりましたが、この収支残金はすべて法定準備金に積み立てました。

法 定 準 備 金

平成30年度の決算残金処分の結果、法定準備金は23億230万円となり、法定所要額に対する保有率は329.77%へ拡大しました。(平成29年度決算時保有率 231.40%)

Column

一般勘定(健康保険)では 支出の約4割を高齢者医療制度へ拠出しています

前期高齢者納付金は、65～74歳の高齢者が各保険制度間で偏って加入(特に国民健康保険に集中)していることによる医療費負担の格差を調整するための制度であり、高齢者比率の低い健保組合は高額な納付金を分担することとなります。また、計算基礎には当該組合の前期高齢者の医療費実績が使用されますので、健保組合にとってこの年齢層の健康管理は重要な課題となっています。

後期高齢者支援金は、75歳以上の高齢者が全員加入する医療保険である後期高齢者医療制度への拠出金です。この制度は費用の9割を現役世代(健保組合など)からの支援金と公費で賄っており、各健保組合にはその被保険者の総報酬額に比例して分担金額が賦課されます。

介護保険制度では利用者の自己負担を除いた費用を、介護保険被保険者(40歳以上)の保険料と公費で半分ずつ負担しています。健保組合では、40～64歳の介護保険2号被保険者から介護保険料を徴収して、**介護納付金**を国へ納付しています。介護納付金の計算方法は、加入者数に応じて負担する「加入者割」から総報酬額に応じて負担する「総報酬割」へと段階的に変更され、令和2年度は全面的に総報酬割となります。

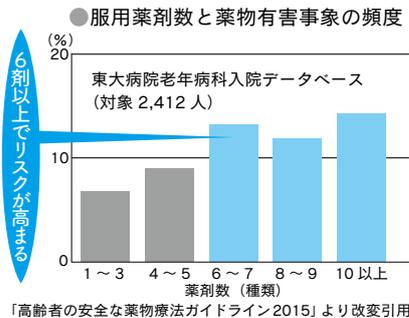
薬のもらいすぎにもご注意ください！ 病院にかかりすぎていませんか？

「頻回受診」「重複投薬」という言葉を聞いたことはありますか？
必要以上に医療機関を受診したり（頻回受診）、同じ効きめの薬を複数の医療機関から処方されること（重複投薬）をいいます。こうした受診は医療費がかさみ、体に悪い影響を及ぼすこともあります。



⚠ 薬には悪影響もあります

複数の病院を受診すると、薬がたくさん処方されて医療費がかさむだけでなく、同じ作用の薬を重複してのんでしまうなど、薬の悪影響も心配です。



⚠ かぜに抗菌薬は効きません

抗菌薬（抗生物質）は肺炎など細菌が原因の病気に効果のある薬で、ウイルスが原因のかぜには効きません。そればかりか、むやみに抗菌薬を使うと耐性菌が出てくる恐れも。「抗生物質をください」とねだるのはやめましょう。



「お薬手帳」と「かかりつけ薬局」で薬のトラブルを防止

お薬手帳は保険証等と一緒に携帯し、薬局だけでなく医師にも見せましょう。薬が余っている場合は医師や薬剤師に伝えます。
かかりつけ薬局は、重複投薬や残薬（余った薬）を確認してくれるだけでなく、軽症の場合には市販薬の相談にもものってくれる「セルフメディケーション」の強い味方です。

スマホなら忘れることも少ないし、いつでも確認できますよ！

定期的
同じ薬局を
利用する場合は…

お薬手帳の提示で
40円お得！
※自己負担3割の場合



広がる風しんの流行を抑えよう！

30～50代男性は、確実に風しんワクチンの2回接種を

昨年から男性を中心に広がっている風しんの感染拡大が今もなお続いています。
ワクチン接種を徹底し、流行を食い止めましょう。

抗体のない可能性のある人は抗体検査を受けて確認を

昨年からの風しんの流行は30～50代の男性が中心です。この世代は予防接種法の改正などの影響で風しんワクチンを接種しておらず、抗体をもっていない可能性が高いのです。ただし、

風しんは2回のワクチン接種でほぼ100%防ぐことができる病気です。抗体検査を受け、必要ならワクチンを接種することが流行阻止の要となります。

40～57歳の男性は無料で風しんの抗体検査・ワクチン接種を受けられます

厚生労働省では、1962年4月2日～1979年4月1日生まれの男性に対し、原則無料で抗体検査とワクチン接種を受けられる施策を2019年4月から2022年3月末までの3年計画で実施。対象者には市区町村から無料クーポン（受診券）が配付されます。クーポンが届いた人は、まず抗体検査を受けて、免疫が不十分と判定された人は同一年度内にワクチンを2回接種します。重要性を理解して積極的に受けましょう。また、多くの市区町村では、先天性風しん症候群の予防促進のため、おもに妊娠希望の女性やそのパートナーに無料で風しんの抗体検査を実施しています。

分と判定された人は同一年度内にワクチンを2回接種します。重要性を理解して積極的に受けましょう。また、多くの市区町村では、先天性風しん症候群の予防促進のため、おもに妊娠希望の女性やそのパートナーに無料で風しんの抗体検査を実施しています。

1年目（～2020年3月）無料クーポン（受診券）郵送の対象者

**1972年4月2日～1979年4月1日
生まれの男性**

*1年目の郵送対象とならない1962年4月2日～1972年4月1日生まれの男性も、希望すれば市区町村からクーポンが発行され、無料で抗体検査とワクチン接種を受けられます。

*抗体検査・ワクチン接種は、医療機関によって実施する曜日・時間帯が決まっている場合や、対象となる人に制限が設けられている場合があるので、電話などで確認や予約をしてから受診しましょう。